

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第14号—

令和元年7月1日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

今年も豊作に！田植えがんばりました！

5年生では総合的な学習の時間で「稲作」を学習しています。今年もスクールバス運転手の小川さんの御指導の下、これまでに、粃の選別、粃まき、育苗と取り組んできました。

そして6月24日（月）は待ちに待った田植えでした。どろんこになりながらも、田んぼ一面に苗を植えることができました。小川さん、5年PTAの皆様の御協力に感謝します。



青少年劇場『狂言』を鑑賞しました！

6月25日（火）、古典芸能の優れた舞台芸術を鑑賞することにより青少年の豊かな心を養うことを目的とした『狂言』観賞会が野子小中学校であり、津吉小学校から5・6年生37名が参加しました。「蝸牛」「しびり」の舞台を鑑賞したり、狂言についての解説があったり、代表児童による狂言の体験コーナーがありました。



「つよし検定」について

先日のPTAで、『宿題』について学校の取組を説明していましたが、家庭学習の習慣化と基礎学力の育成・向上を目指して、今年度から下記の要領で「つよし検定」を実施します。

- 「つよし検定」は、9月と1月の年2回実施します。（夏休みや冬休みにもしっかり練習します）
- 「つよし検定」は、「漢字」と「計算」の2つ実施します。
- 「つよし検定」は、算数プリントの問題と当該学年の既習の新出漢字から出題されます。
- 算数プリントは学校で取り組み、採点したプリントはファイルにとじています。
- 漢字は、毎日宿題で練習し、定期的に小テストを実施します。
- 間違ったところが学習のポイントです。間違ったところを繰り返し練習しましょう。
- 「つよし検定」は、80点以上が合格です。合格すると『合格証』を授与します。
- 合格できない場合は、合格するまで繰り返し検定を行います。

なお、「つよし検定」については、先週金曜日に子供たちにも説明しました。その際、「努力の大切さ」について説明するために使用した作文を裏面に掲載します。「やればできる」という意欲や「頑張ってきた時の喜び」が味わえるよう取り組ませていきます。 【裏面もご覧ください】

努力のつぼ

1年 角野 愛

「お母さん、努力のつぼの話、またして。」

「うん、いいよ。今度はなあに。」

「逆上がり。」

「あらあら、まだいっぱいになっていなかったのね。随分大きいねえ。」

と言いながら、お母さんは椅子を引いて、私の前に座りました。そしてもう何回もしてくれた努力のつぼの話をまたゆっくりと始めました。それはこんな話です。

人が何か始めようとか、今までできなかったことをやろうと思った時、神様から努力のつぼをもらいます。

そのつぼはいろんな大きさがあって、人によって、時には大きいのやら小さいのやら色々あります。そしてそのつぼは、その人の目には見えません。でもその人がつぼの中に一生懸命「努力」を入れていくと、それが少しずつたまって、いつか「努力」が溢れる時、つぼの大きさが分かるということです。だから休まずにつぼの中に努力を入れていけば、いつか必ずできる時がくるのです。

私はこの話が大好きです。幼稚園の時、初めてお母さんから聞きました。その時は、横ばしごの練習をしている時でした。それから一輪車や、鉄棒の前回り、跳び箱、竹馬。何でも頑張っている時お母さんに頼んでこの話をしてもらいます。

くじけそうになった時でも、この話を聞いていると、心の中に大きなつぼが見えてくるような気がします。そして私の「努力」がもう少しで溢れそうに見えるのです。だからまた頑張る気持ちになれます。

お母さんの言うとおり、今度の逆上がりのつぼは、随分大きいみたいです。

逆上がりを始めてから、もう2回もこの話をしてもらいました。でも今度こそ、あと少しで溢れそうな気がします。だから明日から、また頑張ろうと思います。

お母さんは

「つぼが大きいととても大変だけど、中味がいっぱいあるから、あなたのためになるのよ。」

と言ってくれるけど、今度神様にもらう時は、もう少し小さいつぼがいいなあと思います。

【※原文のひらがなの所を漢字に直しました。】

(出典：朝日作文コンクール「子どもを変えた親の一言」作文25選 明治図書)